

事業実施の背景・課題、目標

□ 抜本的な普及改善

人口減少・過疎化が進む中、従来の団体任せの競技者獲得から離脱し、他競技からの転向やフィットネス需要の取り込みによる普及が求められる。

□ 観客の育成・収益化

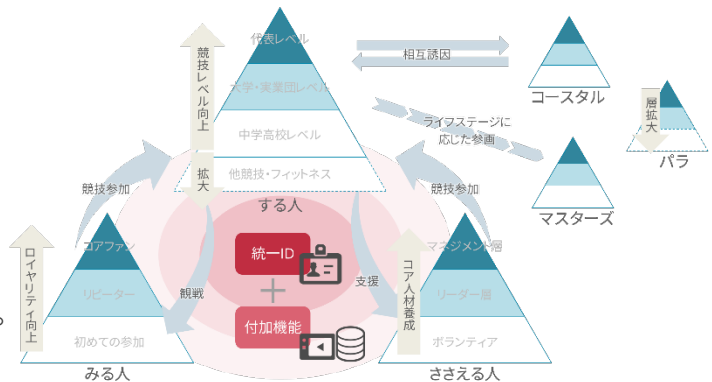
組織基盤強化に必須となる“みる人”からの収益獲得について、2022年5月の全日本選手権を皮切りに、顧客育成も含めた早急な検討・実行が求められる。

□ 運営面での効率化

マスターズを含む選手登録や選手・観戦者・ボランティアへのAD発行など、人・リソースを一元管理することで、大会運営時を中心に効率化が求められる。

□ トレーサビリティの充実

「誰が・いつ・どのように参加したか」「何に関心を示したか」を統一的に管理することにより、LTVの最大化に対し能動的にアプローチすることが求められる。



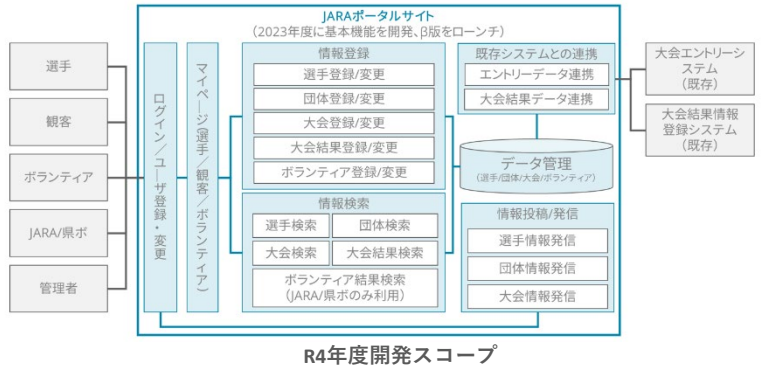
本事業における具体的な取組内容

プラットフォーム構築

実施期間：令和4年度～令和6年度

取組内容：以下の目的を達成するため、プラットフォームを構築する

- Rowingに関わるすべての人のすべての活動を統一IDで管理
- 活動のトレースと付加機能の提供を通して、あらゆるステークホルダーが生涯を通してRowingから得られる価値を最大化
- 関わり方ごとに競技レベル・ロイヤリティ・運営ステージを向上
- “する”⇔“みる”⇔“ささえる”の人材還流や、競技カテゴリを越えた相乗効果を創出
- Ergoの記録管理を足掛かりに、他競技・フィットネス層へ普及拡大

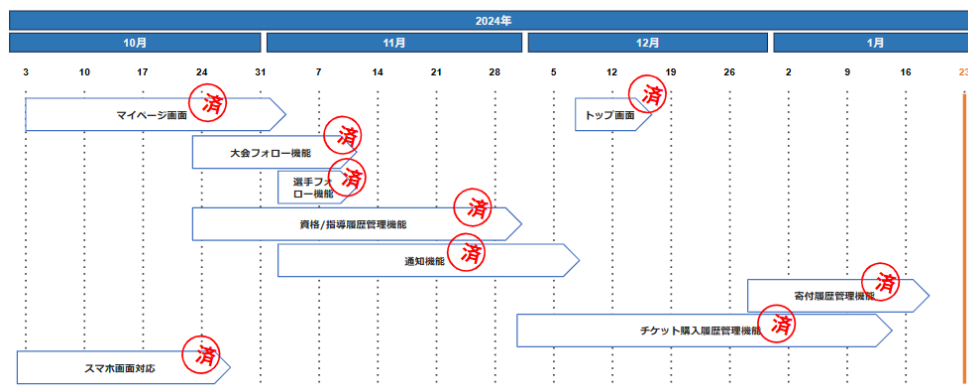


# 令和6年度の取組内容

## プラットフォームにおける機能開発

プラットフォーム提供に必要となる機能開発について  
詳細要件の定義から実装、テストを実施

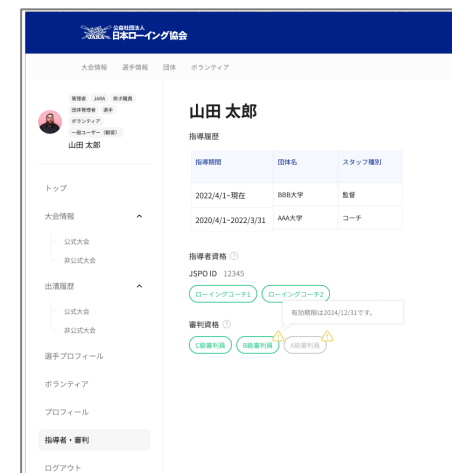
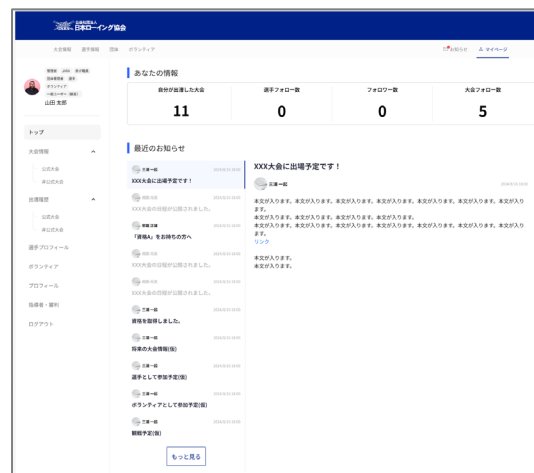
- マイページ機能
- 選手/大会フォロー機能
- 資格/指導履歴管理機能
- 通知機能
- チケット購入/寄付履歴管理機能



## 令和6年度の取組の進捗・成果・課題

### 【令和6年度の進捗・成果】

- システム自体の開発に加え、非機能要件としてセキュリティや可用性についても整理を実施
- データバックアップも含め、ランニング（システム運用）にかかる費用を検討
- 今後のシステムの拡張性やメンテナンス性（技術者の確保）を踏まえ、クラウド環境をAWSに移行
- UAT（ユーザ受け入れテスト）を通し、協会内で開発環境を共有し機能、画面イメージを共有



### 【令和6年度に生じた課題】

- 令和6年度中のリリースを目標に取組みを進めるも、実現には至らず（コスト面から必達要件であった機能開発についてはほぼ完遂）
- 開発のみならず具体的な運用に向けた諸々の整理（利用規約の制定、過去データに関するDB移行など）に関し、担当者の稼働ひっ迫が要因となり完了できず

# 本事業の成果目標・KPIの達成状況

開発の最終年度として、システム開発については完了したものの、年度当初に目標としていた以下については未達

- 年度内の一般ユーザ向けリリース、データ移行
- 中長期のKPI及び収支計画に関する協会内オーソライズ補足)

当初計画としていたシステム開発については対応完了

令和7年度以降、安定的な運用・漸次的な利用者の拡大を見据えてスモールステップを踏みながら機能をリリース

## 本事業を通じて感じた成果、課題等

### 【成果等】

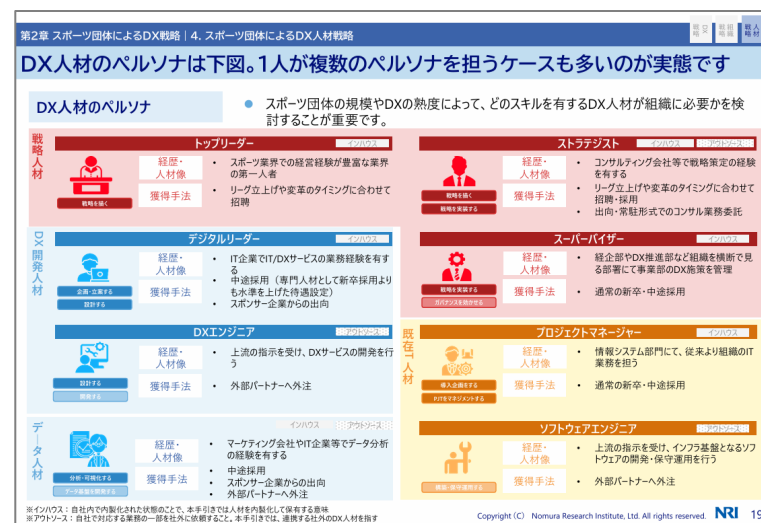
- 上記の通り、システムにおける必要な機能の開発は完了
- UAT等を通して、具体的なイメージを持ちながらDXの必要性や実現の方向性について協会内で共有

### 【課題・問題認識】

- DXはもとよりITにかかるヒト・モノ・カネのリソースが不足
- 特にヒトについては、DX人材についてはペルソナ(右図)のいずれも不足している状況であり、本事業においても特定メンバーの稼働に強く依存していたことがKPI未達の要因に
- IT環境についても旧態依然の仕組みが多く、DXに知見を有する人材(特に若手)を呼び込むための環境整備自体に遅れ

### 【活用/解消にかかる取組み】

- 副業/パラレルワークを呼び込む活動の推進
- スポンサー連携等によるリソース確保アプローチの検討
- 上記を実現するための活動環境の改善やモダナイゼーション



# 本事業を踏まえた将来的な構想

## 【令和7年度以降の構想】

- 開発したプラットフォームを機能させるべく、利用規約の制定、過去データに関するDB移行などの対応を推進
- 本プラットフォームをDXの基盤として最大限活用可能にするとともに、発展的な活用を検討すべくDX人材を確保

## 【NFに求められる”プラットフォーム”としての役割】

- これまでの「開催することが目的の競技(大会)」  
「必要最低限の情報発信」から、活用可能で積極的な  
情報発信へのシフトがプラットフォームであるNFに  
求められる

### NFが今後応えていくべきニーズ

- 競技者：戦略的/ロジカルなトレーニングと競技力向上
- 応援者：応援したい/知りたい情報の獲得
- 潜在的競技者：多角的/多面的な競技参画

4. 組織に必要なDX機能とDX人材の定義付け | 4-2. ヒアリング調査  
**NFでは、スポンサー連携や専門人材への委託等でナレッジとリソースを低コストで確保しつつ、幅広い競技愛好者や都道府県関係者向けの基盤・ポータル整備を進めることが求められる**

NFにおけるDX施策および組織・人材戦略のポイント

**大**

日本陸上競技連盟 H氏

- 施策：陸上競技者・愛好家向け新会員登録・大会エントリーシステムを構築し、ペーパーレス化と効率化を実現
  - ✓ これまで県の協会が個別に実施していた窓口を統一することで、全国で業務負担を軽減することを目指す
- 組織：開発機能は内部に保有しておらず、外部ベンダーの既存サービス活用により低コストで開発を推進
  - ✓ 競技団体向けの既存業務・ポータルサービスをカスタムして運用することで、初期開発コストを圧縮
- 人材：仕様検討、ベンダーとの調整等は外部の専門人材に兼業で依頼することで、着実なPJ推進を実現
  - ✓ 外部のシステムコンサル人材が兼業でシステムの仕様検討、ベンダーとの調整・監督等を主導

**小**

日本山岳スポーツクラブの会 H氏

- 施策：VR/AR、メタバース等を活用した新しい観戦体験価値、および新規ビジネスの創出に挑戦
  - ✓ 放映・スタッフデータ基盤の構築、これに紐づくVR/AR放送システム開発、VARシステム等を立て続けに導入
- 組織：一部IT企業とテック系サプライヤーとして契約、資金ではなく技術・アドバイスを提供によるサポートを受ける
  - ✓ スポンサー企業はシステムの開発・運用だけでなく、新規DX施策の提案など戦略機能も一部サポート
- 人材：内部DX人材が戦略機能を幅広くカバー、スポンサーのIT企業と密接な協力関係を構築
  - ✓ 上記人材は元々大会の運営現場出身で、その際にシステム開発経験および企業ネットワークを重視

出展：”スポーツ庁”令和6年度 スポーツ×テクノロジー活用推進事業 アンケート

## 【ローイングにおける包摂】

水上の漕ぐ動作を陸上でトレーニングとして行う「インドアローイング」を「競技」としたもので、「ローイングマシン」を全国の仲間と繋ぎ、バーチャル空間で競速する大会として、普及を主たる目的として開催。

開催日時：2024年2月3日(土) 12:00-17:00  
 後援：戸田市、戸田中教育委員会  
 協力：戸田がートレース企業団、埼玉都市ボートレース企業団、関東学生漕艇連盟  
 協賛：CHUMS、スターラインジャパン、NTT東日本  
 種目：500m、1000m、2000m、リレー（男子・女子・混合）

年齢 最少：7歳 最多：71歳	競技歴 未経験～ 五輪代表 (アトランタ～東京)	競技横断 野球 (東工大電電、慶応義塾) クロスフィット	パラ 下肢障害 上肢障害 パラパワー リフティング
参加者 306名 633名	国籍 フランス エジプト ドイツ	地域 北海道～ 沖縄	特設会場 戸田 銀座 名古屋

ローイングの参画人口最大化、競技としての拡張性の確認、ダイバーシティ&インクルージョンの実現

### 特集記事 第103回全日本ローイング選手権 パラローイング種目結果

5月22-24日海の森水上競技場にて行われた第103回全日本選手権において、PR3男子ペア、PR1男子シングルスカル、PR1女子シングルスカル（公式タイムトライアル）の種目が実施され、パラローイング日本チームの選手も多数参加しました。25日が強風予想で急遽中止となり、24日までに短縮されたにもかかわらず、当競技を応援いただいた皆様はじめ多くの観客にお越しいただき会場は大盛況でした。パラ種目では、PR3男子ペアでは倶楽部KBCが初優勝、PR1男子シングルスカルでは森卓也選手（養和会）が連覇となりました。 ※写真提供 JARA広報

--	--	--	--	--